

第5回エコ改修検討会WSに向けて

ー特別講座・シンポジウムのまとめー

■ エコスクールとはどういうものか？

- エコスクールとは、単にエネルギーロスを少なくするだけではなく、より幅広く考えることが必要
- 身体性＋精神性

■ ブナ帯のエコスクール

- ブナの生育する気候帯を活かした（利用した）学校環境
- 学校の校庭、周辺、街がブナ帯を活かした環境づくり

■ 黒松内の環境資源のワイズユース

- まち＝都市＋農村＋田園（自然環境）の共生
→ 地域を動かしていく力
 - 人財を増やしていくこと
 - 行動する地域の旦那衆と若衆

■ 黒松内エコ・コミュニティ・カレッジ

- まち全体をつくっていく
- 生涯学習＝生徒だけが使うのではなく・・・



黒松内中学改修をスタートするもう一つまちづくり

■ 中学改修のもうひとつの意味

- 公共的な施設をきっかけにして、地域を大事にする人を育てる
 - 人財を増やしていくこと
 - 行動する地域の旦那衆と若衆
- 自分たちの方向性を決定していくこと

■町の立場

- 子どもたちの教育の場をつくる
- 学校が子供たちの居場所

- 学校＝生涯学習施設のひとつ 今までの環境教育が加速される
- 現在の学校にまちづくりを支えるシナリオを

- 自然＋人のまちづくり＝環境自治体の体現」

■学校の夢

- PTA0Bが学校に来る機会
- 総合的な学習＝外部講師、地域での学習
- 学校を見てほしい＝行ってみようかと思える環境づくり
- 柔軟に対応できる計画＝設計と骨太な部分

■環境教育の可能性

- 環境＝地域
- 環境教育は何か特別なことをするのではない
- うまく土地の資源を活かしていく
- 座学ではなく、実践としての環境教育がされること
 - 命とのつながり
- 人と人とのつながり、関わりが支え合うこと
- 維持管理を地域が協力する＝それが環境教育
- 環境の問題＝子供たちが参加して解決していかなければならない
- 刷り込まれた記憶をつくること

■ エコスクール

- 室内環境だけでなく、外側を考える
 - 学校にブナ林があってもいい
 - 周辺的环境と連続性を持つこと
 - ブナの持つ保水力＝一種のラジエター
 - 建物の中だけでなく、建物の外側の光、風を考えること
 - 樹木による光、熱のコントロール
- 地域の方々の活動に活用できる空間

■環境自治体の枠組みは？

- 地域力はいろいろな人が関わっていくこと
- 幅広い意味での環境という捉え方
 - 地域の外部講師としての受け入れ
- 外側への発信だけでなく、内側の充実＝まちづくりにつなげていく
- 攻めのIT技術を使い、こどもたちが世界に発信

■ 未来に向けた目標

- 完成したときに中学でブナサミットを
- 子供たちがチャレンジする（できる）体験
＝黒松内の魅力を知る
- それが新しい校舎の記憶になる
- このプロジェクトに関わったすべての人々の記憶
をとどめる（写真を）
- プロジェクトの想いを子供たちに伝えていくこと
- つくっていく過程を子供たちに見せ、感じさせる
こと